

2019年(平成31年)3月期 第3四半期決算 主要な質問に対する回答

Q: 2018年第3四半期の実績について総括していただけますか?

A: 2018年第3四半期の売上収益は対前年同期比9%増の7,432億円、調整後営業利益も対前年同期比29%増の851億円となりました。売上収益の増加は、特にアジア大洋州・北米・欧州・中国で新車販売及び部品サービスを中心とするバリューチェーンの双方で売上が伸びたことによります。利益面も、部品サービスとマイニング事業の貢献により、大幅に増益となりました。

財務面では、たな卸資産手持日数は、第4四半期に納入予定のマイニング機械の現地在庫増加や、中国2月春節明け需要に向けた油圧ショベルの作り溜めなど、政策的な在庫積み増しもあり、昨年度末比で20日分増加し3,259億円となりました。また、営業債務手持日数は、昨年度末比で17日悪化していますが、主として国内で取引先への支払方針を早期化した影響によるものです。この結果、キャッシュ・フローについても、営業キャッシュ・フローは492億円、フリーキャッシュ・フローは690億円、それぞれ支出超過になりましたが、前述のたな卸資産の増加や買掛債務の減少などが影響したことによります。

Q: 2018年度見通しについて総括していただけますか?

A: 2018年度の市場見通しとしては、全世界の油圧ショベル需要は前年度比2%増、マイニング機械需要は前年度比若干増へ10月時点の前回見通しから若干下方修正していますが、業績見通しについては、第3四半期累計期間の実績を踏まえて、前回公表予想値を上方修正しました。前回公表予想値との比較では、売上収益は200億円増加の1兆円、調整後営業利益は90億円増加の1,000億円、親会社株主に帰属する当期利益は580億円を予想します。第4四半期以降の予想為替レートは、従来予想レートを据え置きました。当社としては、中期経営計画にも掲げている通り、バリューチェーンの深化を図り、経営効率を上げ、先進技術開発やIoT関連の研究開発を進め、これらの施策を遂行する為に必要な投資や間接費支出も、売上収益増加率とのバランスをとりながら進めて参ります。

Q: 建機の需要環境の見方についてもう少し詳しく教えてください

A: 当社の主力製品である油圧ショベルの世界需要は、2018年度は日本・中東・アフリカ・中南米で減少すると見込みますが、インド・北米・アジア等では増加とみており、その結果、全体で前年度比2%増の22万5千台とみています。この需要規模は前年と比較すると増加率は下がるものの、2010年度の過去最高水準(23万台)のレベルに近い見込みであり、販売物量もこれに伴い高い水準となる見込みです。

Q: マイニング機械の需要環境と受注状況について教えてください

A: 当社として「マイニング機械」に区分する、100トン以上の超大型油圧ショベルと150トン以上のダンプトラックの2018年度需要については、前年度比で若干増加すると見込んでいます。そのうち、比較的小型の100トンクラスの油圧ショベル需要は既に2015年度から増加してきており、引き続き底堅い需要水準が継続するとみています。また、大規模な鉱山で使用されるケースの多い、比較的大型の200トンクラス以上の超大型油圧ショベルと、150トン以上のダンプトラックについては、2017年度に増加傾向が顕著となり、2018年度も継続的に増加しています。

これらの状況を反映して、当社の注力する比較的大型の超大型油圧ショベルとダンプトラックについては、特に今年度初めから旺盛な引き合いを頂いており、その結果、第4四半期の当社売上見通しは全て受注済みです。